

# 令和4年度 事業報告書

(令和4年1月1日から令和4年12月31日)

公益財団法人 運動器の健康・日本協会

## 1. 会員の状況（令和4年12月末現在）

参加団体会員	44 団体（前年度から増減なし）
参加協体会員	11 団体（前年度から増減なし）
支援会員	8 団体（前年度から増減なし）
特別賛助会員	3 社（前年度から増減なし） エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)
賛助会員（ゴールド）	1 社（前年度から増減なし） 小野薬品工業(株)
賛助会員（シルバー）	5 社（前年度から1社減） 旭化成ファーマ(株)、科研製薬(株)、大正製薬(株) 中外製薬(株) 帝人ファーマ(株)
賛助会員（ブロンズ）	1 社（前年度から増減なし） ジンマーバイオメット合同会社

## 2. 諸会議・会合

評議員会（いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式）			
2月12日（土）	第12回評議員会	如水会館	
12月3日（土）	臨時評議員会	学士会館	

理事会（いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式）

1月20日（土）	第1回理事会	学士会館
4月17日（日）	第2回理事会	明治記念館
7月14日（木）	第3回理事会	如水会館
11月22日（火）	第4回理事会	如水会館

業務執行理事会（\*は Web 参加もしくは一部参加）

1月13日（木）	本郷事務局*	2月12日（土）	如水会館
3月3日（木）	本郷事務局*	3月28日（月）	本郷事務局*
4月7日（木）	本郷事務局*	5月9日（月）	本郷事務局
6月14日（火）	本郷事務局	7月5日（火）	本郷事務局
8月29日（月）	本郷事務局	9月27日（火）	本郷事務局
10月26日（水）	本郷事務局*	11月22日（火）	如水会館
12月3日（土）	学士会館		

第11回会員連絡協議会（現地出席と Web 参加のハイブリッド式）

4月17日（日）	明治記念館
----------	-------

## 3. 事業

### （1）顕彰事業「運動器の健康・日本賞の公募、表彰」

#### ア. 2022年度入賞者の表彰

2022年度の応募数は25件（前年より2件増）。入賞者の表彰式を4月17日（日）に明治記念館で行った。表彰式は、新型コロナウイルスを考慮して現地出席と Web 参加のハイブリッド方式で実施、受賞6件のうち4件が現地出席、2件が Web による参加で行われた。

また当協会理事、監事、評議員をはじめ参加団体・特別賛助・賛助会員各社など21名が現地出席、Webで40名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金

の目録が贈られた。入賞者は次の通り。(敬称略)

日本賞 (100 万円)

・門間太輔

「北海道野球検診」

優秀賞 (25 万円)

・医療法人財団五省会

「ロコケン」

・社会福祉法人みまき福社会・温泉アクティブセンター

「みずから(水から・自ら)運動器の健康に取り組んだ四半世紀のプール事業」

奨励賞 (10 万円)

・吉中 康子

「1分体操から始める 歌って楽しい体操プログラム 実践マニュアル」

・特定非営利活動法人えひめ高齢者ヘルスプロモーション研究会

「コロナ禍での高齢者の対面実践セミナーとオンライン体操教室のハイブリッド健康指導」

・KKR 北陸病院障害予防サポートチーム

「少年野球選手における多職種連携シームレスメディカルチェック」

理事長特別賞 (20 万円)

・神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科 4 年制

「コウノトリ義足プロジェクト～人間も動物も健康に暮らせる環境へ～」

#### イ. 令和 5 (2023) 年度顕彰事業の公募

運動器の健康・日本賞は、今回で 11 回目を迎える。新型コロナウイルスの感染拡大で応募事業の停滞が懸念されるが、例年通り公募することにした。表彰式は、状況を考慮しながら 4 月 16 日(日)に行われる会員連絡協議会開催当日に行う。

公募と審査委員会など関連日程は次の通り。

公募の開始	2022 年 9 月 1 日 (木)
応募締め切り	2023 年 1 月 10 日 (火)
審査委員会	2023 年 1 月 18 日 (水)
理事会決済	2023 年 1 月 23 日 (月)
発表	2023 年 2 月 11 日 (土・祝)
表彰式	2023 年 4 月 16 日 (日) 14 時 30 分
プレゼン	同上 15 時
懇親会	同上 16 時

審査委員として理事から 6 名、特別賛助会員から 3 名、賛助会員 (ゴールド) から 1 名、報道機関から 2 名の合計 12 名を選任した。

入賞者には日本賞 (100 万円) 1 件、優秀賞 (25 万円) 2 件、奨励賞 (10 万円) 5 件、理事長特別賞 1 件 (賞金 20 万円) をそれぞれ贈る。

#### (2) 広報事業・「運動器の健康に関する広報活動」

担当理事 竹下 克志 担当委員 土原 亜子

##### ア. 広報季刊誌「Moving」の 43, 44, 45, 46 号の 4 冊を発行

令和 4 年度も季刊(3, 6, 9, 12 月)で全 4 号を発行した。好評のフロントページは、写真家の越智貴雄さん、国際ジャーナリストのモーリー・ロバートソン

さん、振付師・俳優のパパイヤ鈴木さん、タレントの LiLiCo さんにそれぞれ登場してもらい、「私と運動器」について語ってもらった。

また、中面の記事について第 43 号は、当協会の参加団体会員「日本義肢装具士協会」の協力により、「知られざる義肢装具の世界」について、また 2022 年度運動器の健康・日本賞で理事長特別賞を受賞した「コウノトリ義足プロジェクト～人間も動物も健康に暮らせる環境へ～」の紹介、コロナ禍の腰痛対策についてなどを記事にした。

第 44 号は、「コロナ後遺症」と身体や心への影響について、コロナ禍で起きやすい腰痛&ぎっくり腰予防について、2022 年度運動器の健康・日本賞で日本賞を受賞した「北海道野球検診」の事業を詳しく紹介した。

第 45 号は、7 月 30 日(土)にオンラインで開催したシンポジウム「子どもの運動器の健康を守り、スポーツ障害を予防するために」の開催内容を報告、コロナ禍における幼児の運動能力についても紹介した。

第 46 号は、痛みの治療薬にはどんなものがあるのかを紹介した。

なお、年度内の印刷部数は計 45,000 部で、定期配布先に合計 44,803 部を配布した。

#### イ. ホームページによる広報活動

ホームページを逐次更新し、当協会の概要および、刊行物等の紹介、国民に運動器の健康の大切さを広く知ってもらうための記事の充実を図った。

またコラム欄では、『Moving』の巻末にも掲載した理事、委員によるリレーエッセイを再掲載した。年度内の掲載は次の通り。

3 月 大工谷新一理事 「肩の力を抜いてみませんか」とは

6 月 久保俊一理事 「注目すべきリハビリテーション医学・医療の展開」

9 月 池内 昌彦理事「ランニングにハマる」

12 月 丸毛 啓史理事「テニスでイキイキ長生き！」

ホームページの閲覧数は、1 月 30,074PV から 11 月 50,009PV と約 2 万 PV 増加した。年間で最も読まれた記事は、「股関節が痛い！ 40~50 代女性に多い変形性股関節症の症状と治療について」で 95,585PV、2 番目は「40 代から始まる膝の痛み。原因は何？ 予防はどうすればいい？」で 74,573PV、3 番目は、「30 代、40 代の 7 割が腰痛！ 痛い、重い、だるい、動けないの原因は？」で 45,456PV だった。

#### ウ. BJD ロゴマークバッジの頒布

BJD バッジの令和 4 年度内の配布は、有償が 5 個、無償が 15 個、期末在庫は 189 個となった。

#### (3) オンライン・シンポジウム、セミナーの開催

コロナ禍にあっても運動器の健康推進事業を展開するため、各委員会が単独または合同で下記のオンラインによるシンポジウム又はセミナーを開催。予期以上の視聴者が参加し、目的とした普及・啓発活動に成果があった。

##### 1) 学校保健委員会・成長期のスポーツ外傷予防委員会合同企画

『子どもの運動器の健康を守り、スポーツ障害を予防するために』

西新宿：(株)フォトクリエイトから配信 参加費無料

目 的 成長期の児童生徒等をテーマとして、学校健診関連の上肢、脊椎、下肢などのけがの予防を中心に、中学校の教員、養護教諭、理学療法士向けに啓発・理解を深める。

日 時 7月30日(土) 午後1時30分から同5時15分

開催方式 当日のライブ配信と8月5日(金)から10日間、オンデマンド配信

告知方法 告知用のチラシを用意し、次の団体経由で案内した。

全国養護教諭連絡協議会と支部、日本中学校体育連盟と都道府県連盟、日本理学療法士会と都道府県士会、都道府県教委学校保健担当

視聴者数 ライブ視聴者 287名 オンデマンド視聴者 609名

開催内容 開会挨拶 武藤芳照理事

第1部 児童生徒等の運動器の健康の現状と課題 座長 内尾祐司理事

(1) 学校健診における運動器検診の事後措置と予防教育 高橋敏明委員長

(2) 運動器検診の質を高めるために 上肢・下肢の異常 森原 徹委員

(3) 運動器検診の質を高めるために 脊柱の異常(側わん症) 渡辺航太委員

(4) 保健室から見た児童生徒の運動器の健康 村井伸子委員

第2部 成長期のスポーツ外傷・障害の予防 座長 稲垣克記理事

(5) スポーツ外傷・障害の予防 上肢 松浦哲也委員

(6) スポーツ外傷・障害の予防 下肢・体幹 渡邊幹彦委員長

(7) 理学療法士による児童生徒へのスポーツ外傷・障害の予防教育

坂本雅昭副委員長

第3部 質疑応答 座長 内尾祐司理事、稲垣克記理事

指定発言 菊山直幸委員

閉会挨拶 吉井智晴理事

開催経費 配信費用 529,100円

旅費・謝金 422,946円

その他の経費 216,412円

合 計 1,168,458円

## 2) 運動器外傷の救急医療に関する委員会・脆弱性骨折予防委員会合同企画

『多職種連携が大腿骨近位部骨折後の二次性骨折を予防する

～運動器外傷診療の向上を目指して～』

渋谷：スポーツ IT(株)からライブ配信 参加費無料

目 的 2022年4月より、大腿骨近位部骨折の早期手術および二次骨折予防の実施が診療報酬上で評価されることとなり、大腿骨近位部骨折患者の予後改善と健康寿命の延伸を図るため、大腿骨近位部骨折に対する多職種連携によるチーム医療の在り方を議論し、関係者に啓発することを目的とする。

日 時 10月30日(日) 13時から17時30分

開催方式 当日のライブ配信

希望者に事後視聴(11月2日(水)から20日(日)まで)

告知方法 当協会参加団体のうち関連の19団体、全国大学整形外科学教室、全国理学療法士養成校、日本理学療法士協会と都道府県士会、日本運動器看護学会、日本脆弱性骨折ネットワーク、薬剤師・看護師関係先など

視聴者数 受講申し込み者数 1,148人 ライブ配信受講者 315名  
 事後視聴者数 第1部 712回 第2部 444回  
 第3部 246回 第4部 220回

開催内容 開会挨拶 三上容司理事  
 第1部 大腿骨近位部骨折の現状と早期手術を行うために  
 座長 宮腰尚久委員  
 (1) 大腿骨近位部骨折診療の現状 萩野 浩理事  
 (2) 自験例からみた大腿骨近位部骨折早期手術に必要な要因、それを妨げる  
 要因 山崎 薫委員  
 第2部「ストップ、骨折ドミノ！」にむけて 座長 萩野 浩理事  
 (3) 大腿骨近位部骨折における骨折リエゾンサービスの実際  
 井升江美子看護師  
 (4) 大腿骨近位部骨折二次性骨折予防の継続のための地域連携  
 山本智章委員長  
 (5) 地域で連携する骨粗鬆症診療 沖本信和委員  
 第3部 重症患者への対応 座長 三上容司  
 (6) 重症併存疾患を有する大腿骨近位部骨折患者への対応  
 井口浩一委員長  
 第4部 質疑応答 座長 宮腰尚久委員 萩野浩理事 三上容司理事  
 (7) 質疑応答  
 (8) 指定発言 薬剤師の視点から 長谷奈那子氏  
 (9) 指定発言 理学療法士の視点から 田中暢一氏  
 閉会挨拶 萩野 浩理事

開催経費	配信費用	478,500円
	旅費・謝金	402,331円
	その他の経費	27,010円
	合計	907,841円

### 3) 学校保健委員会企画

『理学療法士のための児童生徒等の運動器の健康に関する教育セミナー』  
 ～「スクールトレーナー」の育成を展望して

外苑前 Japan Sports Olympic Square：からライブ配信 参加費無料

目的 理学療法士に対し、「チーム学校」の一員として必要な知識を啓発する目的で、児童生徒等の運動器の健康推進に協力する事業として実施する。

日時 11月12日(土) 13時30分～17時30分

開催方式 当日のライブ配信のみ

告知方法 日本理学療法士協会と都道府県理学療法士会を通じて案内  
 少年野球指導者講習会講師修了登録理学療法士にも案内

視聴者数 受講事前申し込み者数 831人 当日受講者 638人

開催内容 開会挨拶 丸毛啓史理事長

第1部 基調講演

(1) 学校健診における運動器検診導入の経緯と効果、今後の課題

内尾祐司理事

- (2) 学校保健の組織・体制と今後の課題 衛藤 隆氏
- 第2部 講義
- (3) 児童生徒等の運動器の疾患・障害の実態 高橋敏明委員長
- (4) 学校医から見た児童生徒等の運動器の健康課題 山中龍宏委員
- (5) 保健室から見た児童生徒等の運動器の健康問題 村井伸子委員
- (6) 弁護士から見た児童生徒等の運動器の健康課題 望月浩一郎監事
- (7) 理学療法士による学校における児童生徒等への運動器外傷の予防教育の実態 板倉尚子委員、鈴木享之委員
- (8) 日本理学療法士協会における学校保健への参画の取り組みの現状と課題 大工谷新一理事

第3部 総合討論（質疑応答と意見交換）

閉会挨拶 武藤芳照理事

開催経費	配信費用	440,000 円
	旅費・謝金	219,470 円
	その他の経費	193,580 円
	合計	853,050 円

(4) 子どもの運動器の健康推進事業

ア. 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	東京健康リハビリテーション総合研究所
担当理事	内尾 祐司	島根大学医学部整形外科学教室
担当理事	大工谷新一	日本理学療法士協会
委員長	高橋 敏明	愛媛大学社会共創学部スポーツ健康科学
委員	板倉 尚子	日本女子体育大学健康管理センター
	菊山 直幸	公益財団法人日本中学校体育連盟
	鈴木 享之	長汐病院
	村井 伸子	埼玉県立春日部高等学校
	森原 徹	丸太町リハビリテーションクリニック
	山中 龍宏	みどり園子どもクリニック
	渡辺 航太	慶應義塾大学医学部整形外科学教室

イ. 委員会開催

2月19日(土)	学校保健・成長期合同委員会	Web会議
4月9日(土)	第1回委員会	Web会議
5月16日(月)	学校保健・成長期合同委員会	Web会議
7月2日(月)	第2回委員会	Web会議
9月2日(金)	第3回委員会	Web会議
10月18日(火)	第4回委員会	Web会議

ウ. 事業の概要

年度内次の事業を行った。

① 運動器検診マニュアル・教育資料の制作

学校の運動器検診での診断のポイントなる動画の制作を委員会で提案、上肢、下肢、脊椎、をテーマに、森原委員と渡辺委員に担当を要請した。主な項目は

以下の通りで、年度内にシナリオを作成、令和5年度の学校健診時期に間に合うよう動画を作成することとした。

i. 総論

運動器検診の歴史

小学生中学生における運動器（骨・筋腱）の発育

運動器の健康の問題点（柔軟性、障害、外傷）

ii. 上肢

「ばんざい」からわかる上肢の運動器障害 肩肘障害

iii. 下肢

「しゃがみこみ」からわかる下肢運動器障害

シンスプリント、扁平足、凹足、オスグット病、O脚、X脚

iv. 体幹（脊椎）

「前屈、後屈」からわかる脊椎障害

側弯症、腰椎分離症、腰椎椎間板ヘルニア

② 「スクールトレーナー認定制度」の構築と準備

i. 関係団体への説明

これまで凍結してきた「スクールトレーナー認定制度」を改めて本格的に準備する時期が来たことで、主体的な組織となる日本理学療法士協会（斉藤秀之会長）と理念の擦り合わせを行い、「開業権」を目的化しないとのこれまでの方針を確認した。また、日本医師会（松本吉郎会長）に事業のポイントをまとめた資料を提示し、今後の展望を説明した。

・日本理学療法士協会幹部との協議

7月11日（月） 於：六本木・日本理学療法士協会会館

PT協会>斉藤会長、吉井副会長、湯元専務理事他常務理事2名

当協会>丸毛理事長、松下専務理事、武藤理事、三上理事、竹下理事

・日本医師会・松本会長に対する骨子の説明

8月2日（火） 於：本駒込・日本医師会会館

日本医師会>松本会長、長島常任理事、成宮審議役、健康医療第1課長

当協会>丸毛理事長、松下専務理事、武藤理事、三上理事、竹下理事

ii. 作業部会の設置

「スクールトレーナー制度」の構築を目指して、具体的な課題を検討するため、作業部会を設け、制度の要項、講習のカリキュラム、認定試験と資格認定委員会の設置、公益認定事業の確認及び関係団体との調整を行うこととした。年度内、次の通り部会を開催した。

第1回 9月30日（金） 第2回 11月1日（火）

第3回 11月14日（月） 第4回 12月19日（月）

作業部会担当理事並びに委員は次の通り。

武藤 芳照 内尾 祐司 大工谷新一 高橋 敏明

板倉 尚子 菊山 直幸 村井 伸子 山中 龍宏

iii. 「スクールトレーナーモデル事業」支援

西宮市教育委員会「コミュニティスクール事業」 段上西小学校

学校と地域が一体となって子どもたちを育てる「チーム学校」の取り組み

・総論（講義） 武藤理事 8月26日（金）午前10時

対象：段上西小学校教職員、西宮市教育委員会、地域の学校・園関係



者、保護者、地域関係者など 59 名  
テーマ 『「からだの理（ことわり）～運動器～ 子どもの成長とスポーツのしかた』

・実技の指導 兵庫県理学療法士会 阪神地区担当理事等（10 名）

第 1 回 9 月 15 日（木） 各 45 分×2 クラス×4 回

対 象；1 年生 4 クラス 101 名、2 年生 4 クラス 106 名 合計 207 名

実施内容 『正しくランドセルを背負うための運動』

第 2 回 11 月 24 日（木） 各 45 分×2 クラス×4 回

対 象；1 年生 4 クラス 106 名、2 年生 4 クラス 108 名 合計 222 名

実施内容 『正しい歩き方と運動』

## （5）成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

### ア．担当委員会の構成

担当理事 稲垣 克記 昭和大学病院附属東病院  
担当理事 吉井 智晴（東京医療学院大学保健医療学部）  
委員長 渡邊 幹彦（東京明日佳病院）  
副委員長 坂本 雅昭（群馬大学大学院保健学研究科）  
委 員 岩間 徹（岩間整形外科）  
大歳 憲一（おとし消化器整形外科）  
小林 敦郎（順天堂大学医学部附属静岡病院）  
田鹿 毅（群馬大学医学部）  
田和 一浩（全日本野球協会）  
帖佐 悦男（宮崎大学医学部）  
正富 隆（行岡病院）  
松浦 哲也（徳島大学医学部）  
小林 三郎（全日本軟式野球連盟）  
森原 徹（丸太町リハビリテーションクリニック）  
渡邊 裕之（北里大学医療衛生学部）  
アドバイザー高岸 憲二（佐田病院）

### イ．委員会開催

2 月 19 日（土） 学校保健・成長期合同委員会 Web 会議  
4 月 16 日（土） 第 1 回委員会 Web 会議  
5 月 16 日（月） 学校保健・成長期合同委員会 Web 会議  
10 月 7 日（金） 第 2 回委員会 Web 会議

### ウ．事業の概要

#### ① 少年野球指導者講習会講師派遣

今年度は全日本軟式野球連盟主催の下記指導者講習会が現地参加で 2 年ぶりに開催され、ドクター講師 1 名と理学療法士講師 1 名と補助講師 2 名を派遣した。理学療法士の講師は、講師養成講習会修了者から委嘱した。

また、この講習会で使用する「共通教材」(Ver7) を改訂、ドクター部門は松浦委員が、コンディショニング部門は坂本副委員長がそれぞれ監修した。

年度内の派遣実績は下記の通り。4 会場での参加者は 279 名。\* 上段はドクター、下段は理学療法士の講師

- ・12月3日(土) 東海・岐阜県 受講者 84名  
   ドクター講師 武長徹也(名古屋市立大学)  
   理学療法士講師 櫻井健司(岐阜県・山内ホスピタル)
- ・12月4日(日) 東北・秋田県 受講者 70名  
   ドクター講師 渡邊幹彦委員長  
   理学療法士講師 長谷川弘一(秋田県立循環器・脳脊髄センター)
- 中国・岡山県 受講者 97名  
   ドクター講師 島村安則(岡山大学大学院)  
   理学療法士講師 小畑貴章(倉敷平成病院)
- ・12月11日(土) 北海道・室蘭市 受講者 28名  
   ドクター講師 池 翔太(函館中央病院)  
   理学療法士講師 石川修一(苫小牧日翔病院)

② 肩・肘検診基本マニュアルによるモデル検診実施

本委員会で設定した成長期の野球選手のための検診マニュアルに基づいて、年度内に岩手、群馬、京都、大阪、徳島、宮崎の6府県で実施した。検診は、新型コロナウイルス感染対策で、問診、検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保と徹底を期して行われた。以上の検診実施6府県に各10万円の補助金を支給した。

③ 理学療法士講師養成講習会修了者との情報交換会

9月17日(土)13時~16時まで本郷事務局から「理学療法士講師修了者との情報交換会」をライブ配信(無料)した。参加は、講師修了者217名のうち41名が参加。当委員会から「成長期のスポーツ障害予防・指導者講習会の日程」「指導者講習会の共通教材の改定内容」を報告。

続いて、講師修了者96名から寄せられたアンケートの集計結果を報告した。野球肘検診や少年野球の外傷予防などの事業に、どのような立場で関与しているかを聞いたところ、個人としての関与が多く、理学療法士会など組織として活動している事例はおよそ3割弱だった。また、野球以外の支援では小学生・中学生などの活動で、サッカーやソフトボールへの支援があったが3割にとどまり、特に女子競技への関与が少なかった。

この後、9ブロックから代表1名から「主な活動内容」「野球以外の活動状況」「今後の課題・要望」などがそれぞれ報告された。

以上の結果を踏まえ、次年度以降も講師修了者との情報交換会の開催方法を工夫し、今後の活動に役立つネットワークの設定を目指すこととした。

④ 「体幹トレーニング9」動画作成

令和3年12月19日(日)に、大阪の行岡病院の協力を得て収録した「体幹トレーニング9」のDVDがその後の編集作業を経て完成(250枚製作)。協会のHPに掲載し、スマホに取り込んで自由にダウンロードできるようにしほか、先の1万人の少年野球実態調査に協力してもらった各団体に200枚を無償配布した。

⑤ 野球障害予防懇話会の開催

今年度は、6月17日(金)に札幌で第6回野球障害予防懇話会が開催された。懇話会には整形外科医師45名のほか野球団体関係者らが参加、理学療法士も16名が参加した。懇話会では、2018、2019年に実施された「投球制限後の肘OCD, UCL損傷の手術アンケート調査結果」が報告された。このほかシン

ポジウムで、社会人野球日本代表監督やプロ野球のトレーナーから現状報告があった。

## (6) 運動器外傷の救急医療に関する事業

### ア. 委員会の構成

担当理事	三上 容司	横浜労災病院 運動器センター
委員長	井口 浩一	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
委員	黒住 健人	帝京大学外傷センター
	坂本 哲也	帝京大学救急医学講座
	鈴木 卓	帝京大学外傷センター
	野田 知之	岡山大学運動器外傷学
	宮本 俊之	長崎大学病院外傷センター

### イ. 委員会開催

5月16日(月)	脆弱性骨折予防委員会との合同委員会	Web会議
8月16日(火)	脆弱性骨折予防委員会との合同委員会	Web会議
10月25日(火)	第1回委員会	Web会議

ウ. わが国における運動器外傷に対する救急医療の質の向上と救急外傷センターシステムの構築をめざす活動への支援、協力を目的に、運動器外傷登録制度への支援と協力、わが国における救急外傷センターシステムの必要性に関する啓発活動を目指してきた。

#### ① 脆弱性骨折予防委員会との合同企画の立案

昨年度から脆弱性骨折予防委員会との協同事業として、大腿骨近位部骨折後の後遺障害の予防について協議した。その結果、5月16日(月)と8月16日(火)に開催した合同委員会で、次の通りシンポジウム開催を協議した。

目的 2022年4月から、大腿骨近位部骨折の早期手術および二次性骨折予防の実施が診療報酬上で評価されることになった。この機会に、大腿骨近位部骨折患者の予後改善と健康寿命の延伸を図るため、大腿骨近位部骨折に対する多職種連携によるチーム医療の在り方を議論し、関係者に啓発することを目的とする。

#### ② 大腿骨近位部骨折重症患者の現状調査

高齢者の大腿骨近位部骨折患者のなかでも心不全、透析など重度の合併症をかかえる重症患者は、通常の高齢患者とは異なる治療戦略が必要。まず、大腿骨近位部骨折重症患者の現状を把握するための調査を行い、脆弱性骨折予防委員会と協力して、調査施設、調査項目等を検討した。

### エ. 関連学会・委員会との連携事業

① 第96回日本整形外科学会総会(2023)のシンポ・パネルに次のテーマで応募、下記の演者を選任して参加することになった。

「骨盤骨折治療の進歩」(座長・井口浩一、野田知之)

演者 黒住 健人(虎の門病院外傷センター)

「骨盤骨折の初期治療」—出血のコントロールと骨性安定化—

鈴木 卓(帝京大学医学部整形外科講座)

「骨盤骨折の低侵襲固定法」

- 普久原 朝海（新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センター）  
「寛骨臼骨折手術の最適化」  
伊藤 雅之（福島県立医科大学外傷再建外科）  
「寛骨臼骨折後の人工関節置換術」  
上田 泰久（埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター）  
「骨盤骨折治療の今後の展望」

(7) 脆弱性骨折予防事業

ア. 委員会の構成

担当理事	萩野 浩	鳥取大学医学部保健学科
委員長	山本 智章	新潟リハビリテーション病院
委員	山崎 薫	磐田市立総合病院整形外科
	宮腰 尚久	秋田大学医学部整形外科
	沖本 信和	沖本クリニック

イ. 委員会開催

- 5月16日（月） 運動器外傷の救急医療に関する委員会との合同委員会  
Web会議  
6月26日（日） 第1回委員会 Web会議  
8月16日（火） 運動器外傷の救急医療に関する委員会との合同委員会 Web  
会議  
11月13日（日） 第2回委員会 Web会議

ウ. 事業の概要

- ① 『二次骨折予防手帖』の普及活動  
昨年度制作した『二次骨折予防手帖』を配布し、広く医療関係者および一般市民への啓発を推進し、二次骨折予防の実現を図った。  
年度内の配布状況は次の通り。  
無償配布 8部 有償配布 751部 在庫数 997部
- ② 運動器外傷の救急医療に関する委員会との合同企画の検討  
『多職種連携が大腿骨近位部骨折後の二次性骨折を予防する』について、同委員会と2度の合同委員会を開催、二次骨折予防関連の診療報酬が算定されることになった機会に、大腿骨近位部骨折患者の予後改善と健康寿命の延伸を図るため、多職種連携によるチーム医療の在り方を議論し、関係者に啓発することを目的に開催することとした。このシンポジウムでの各講座内容について、各委員が分担講義することとした。
- ③ 今後の事業計画の内容を検討  
今回の診療報酬の改定を見ると、薬剤治療に重点が置かれており、二次性骨折予防の継続管理を万全にするための薬剤治療と共に、転倒リスクの評価、転倒予防や運動治療といった多職種連携を中心としたシンポジウム開催の検討を行った。次年度に向けた構想は以下の通り。  
骨粗鬆症および二次性骨折予防啓発オンライン講習会（案）  
『待ったなし！二次骨折予防管理—薬剤治療と転倒予防』  
座長 萩野 浩 山本 智章  
i 二次性骨折予防の進め方 . . . 医師

- ii 二次性予防のためのリエゾンサービス . . . 看護師
- iii 転倒予防のための運動指導の実際 . . . 理学療法士
- iv 在宅・施設内の環境整備のポイント . . . 作業療法士
- v 骨粗鬆症薬剤治療のポイント . . . 薬剤師

④ 関連学会とのシンポジウムの共催企画提案

骨粗鬆症関連の団体は同じようなテーマになるので、本委員会としては、医師以外の団体で、看護師、薬剤師、理学療法士、プライマリーケア医などの関連学会との連携を模索することとした。

また、シンポジウム開催に当たっては、複数社の協賛企業から支援が得られる方策も併せて検討することとした。

(8) 運動器疼痛対策事業

ア. 委員会の構成

担当理事	池内 昌彦	高知大学医学部整形外科教室
委員	牛田 享宏	愛知医科大学学際的痛みセンター
	鉄永 倫子	岡山大学病院整形外科、脊椎・脊髄グループ
	園畑 素樹	佐賀大学医学部整形外科学講座
	松平 浩	東京大学附属病院
	三木 健司	早石病院
	矢吹 省司	福島県立医科大学医学部整形外科学講座

イ. 委員会開催

4月 1日(金)	第1回委員会	Web会議
6月 21日(火)	第2回委員会	Web会議
10月 26日(火)	第3回委員会	Web会議

ウ. 事業の概要

本委員会の事業として、運動器疼痛がもたらすQOLの低下や社会的損失の現状について情報発信し、啓発活動をとおして運動器疼痛対策の重要性について広く一般に周知すること。また、運動器疼痛対策に関するエビデンスを、一般市民と医療者それぞれが必要とする有用な情報として整理・発信し、運動器の健康づくりに寄与することを目的として以下の事業を実施した。

① 季刊誌『Moving』による情報発信

令和4年度の季刊誌『Moving』に次の原稿を掲載した。

第43号(3月) コロナ禍で“腰痛&ぎっくり腰”にならない体の使い方とは? (松平 浩委員)

第44号(6月) コロナ後遺症と身体や心への影響とその対応

(牛田享宏委員)

第46号(12月) 痛みの治療薬にはどんなものがあるか? (矢吹省司委員)

② 運動器の健康・日本協会HP掲載コラムによる情報発信

3月:テレワークで腰が痛くなる人が急増中! 適切な「腰痛」撃退&予防法は? (松平 浩委員)

③ 痛みセルフケア小冊子(膝痛版)作成

年度内、以下の編集内容で原案作成。発行は次年度とした。

目的:運動器セルフケアを誰もが理解できる分かりやすい資料を提供する

対象：中高年齢者向けで漫画風にしてキャラクターが解説する。

内容：有酸素運動を具体的に記述、膝痛があっても行えるエアロバイクなど各個人によって適切な運動方法は異なるので、「医療者への相談要」注釈要

配布方法：小冊子、HPダウンロードなど無料とする。

#### (9) ロコモ認知度調査の実施

ロコモ認知度の調査をマクロミル社に依頼、4月8日(金)～10日(日)に事前調査(1万サンプル)と同月11日(月)、13日(水)に本調査を実施した。

その結果、言葉は聞いたことがある「認知」は42.5%、言葉の意味も知っている「理解」は、19.1%だった。性別×年齢別では、女性60代から70代の「理解」「認知」が高くなっている。

全体としてほぼ横ばいで、昨年度(2021度)より「認知」は2.1%下がり、「理解」も0.5%下がった。調査は、引き続き継続する。初年度からの「認知」データは以下の通り。

2012年	17.3%	2016年	47.3%	2020年	43.8%
2013年	26.6%	2017年	46.8%	2021年	44.6%
2014年	36.1%	2018年	48.1%	2022年	42.5%
2015年	44.4%	2019年	44.8%		

#### 4. 運動器関連事業申請の許可

令和4年度内、以下の運動器関連事業の後援・転載申請があり許可した。

- (1) 第9回日本転倒予防学会学術集会：後援名義申請
- (2) 『臨床整形外科』第57巻：学校健診・保健調査票の転載許可
- (3) 愛知県「骨と関節の日」市民公開講座：ロゴマーク使用許可
- (4) 『標準整形外科学』第15版：ロゴマーク使用許可
- (5) 月間『エキスパートナース』：『二次骨折予防手帖』表紙の転載許可

#### 5. 規程の設置と改訂

##### (1) 役員等功労表彰規程の設置

昨年当協会が創立20周年を迎えたことで、長年当協会の運営に功労のあった役員等を表彰する役員等功労表彰規程を、第2回理事会(4月17日・日)で、次の通り制定した。

##### 【役員等功労表彰規程】

運動器の健康・日本協会の役員等として、その運営に功労のあった者を表彰するために次の規程を設ける。

(対象)

第1条 この規程による表彰は、運動器の健康・日本協会の役員(理事、監事)、評議員および各種委員会委員等を対象とする。

(基準)

第2条 被表彰者は、前条の本協会役員等として原則通算10年以上在職した者で、退任した者とする。

2 本協会役員等として原則通算20年を超えた者は、現職者も被表彰者とする。

3 前2項のほか、特に顕著な功労があったと理事長が認めた者。

(決 定)

第3条 被表彰者の決定は、業務執行理事会の推薦を経て、理事会の承認を必要とする。

(表 彰)

第4条 表彰は原則として理事会開催日に行う。

第5条 被表彰者には表彰状と記念品を贈る。

(附 則)

この規程は令和4年4月17日から施行する。

## (2) 功労表彰規程の設置

同じく創立20周年を機に、当協会の運営に功労のあった個人、団体を表彰する規程を、第2回理事会(4月17日・日)で次の通り制定した。

### 【運動器の健康推進事業功労表彰規程】

運動器の健康・日本協会の運営に功労のあった個人、団体を表彰するために次の規程を設ける。

(対 象)

第1条 この規程による表彰は、運動器の健康・日本協会が推進する運動器の健康に関する事業に功労のあった個人、団体を対象とする。

(基 準)

第2条 被表彰者(団体)は、国民の運動器の健康推進に顕著な活動実績があったものとする。

(決 定)

第3条 被表彰者(団体)の決定は、業務執行理事会の推薦を経て、理事会の承認を必要とする。

(表 彰)

第4条 表彰は原則として理事会開催日に行う。

第5条 被表彰者には表彰状と記念品を贈る。

(附 則)

この規程は令和4年4月17日から施行する。

## (3) 会員入退会及び会費に関する規程

特別賛助会員3社からは、毎年寄附金として支援を受けてきたが、各社の社内規定で、寄附金執行に関する条件として寄付先の経常収入に占める割合が一定以上となるとその団体を支配する立場となり得ることから年会費制に移行することとした。第4回理事会(11月22日・火)で次の通り改正した。下線部分が改正箇所。

会員入退会及び会費に関する規程

(目 的)

第1条 定款第31条(権限)及び第45条(規則等への委任)に基づき、この規程を定める。

(会員の区分)

第2条 「運動器の健康」世界運動の理念を広く国民に周知し、心身の健康増進及びQOL(Quality of Life)の向上のため、本協会の活動を支援する組織として、次のとおり、会員制度を設ける。

### 1 参加団体会員

本協会の目的及び事業に賛同し支援する運動器に関する医療を行う国家資格

者で主に構成されている学術団体

2 参加協力団体会員

本協会の目的及び事業に賛同し支援する体育・スポーツ関係団体

3 支援団体会員

本協会の目的及び事業に賛同し支援する運動器に関する患者団体

4 特別賛助会員

本協会の目的及び事業に格別の深い理解と支援が得られ、常時運動器の健康推進啓発事業に財政的な支援を行うことができる企業及び団体

5 賛助会員

本協会の活動に財政的な支援を行う企業、団体又は個人。なお、賛助会員は、その会費の額に応じてゴールド・シルバー・ブロンズの種別に区分する。

(入会)

第3条 会員になろうとする個人、企業又は団体は、本協会所定の入会申込書を提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会員連絡協議会への参加)

第4条 本協会は、参加団体会員、参加協力団体会員、支援団体会員、特別賛助会員及び賛助会員（以下総称して「会員」という。）に対し、定款第43条に定める会員連絡協議会（以下「会員連絡協議会」という。）を開催し、「運動器の健康」世界運動の動向を伝え、国民の運動器の健康増進に関わる情報を伝達し、その普及、啓発を図るものとする。

- 2 会員のうち企業及び団体においては、本協会に届け出たそれぞれの代表者が、会員連絡協議会に出席し、国民の運動器の健康増進に関する情報の提供や意見交換を行うことができる。

(会員の年会費)

第5条 参加団体会員の年会費は、団体に所属する会員数に応じ別表のとおりとする。

- 2 賛助会員の年会費は、ゴールド 300 万円、シルバー100 万円、ブロンズ 50 万円とする。

- 3 特別賛助会員の年会費は、200 万円とする。

- 4 参加協力団体会員、支援団体会員、年会費の支払いを要しない。

(法人会計への充当)

第6条 当該年度の参加団体会員及び賛助会員、特別賛助会員の年会費のうち、1/2を上限として法人会計に充当することができるものとする。

(除名)

第7条 会員が、次のいずれかに該当するときには、理事会の決議により除名することができる。

- (1) この法人の定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、または目的に反する行為をしたとき。
- (3) 会員としてふさわしくないと認められる行為をしたとき。
- (4) 正当な理由なく年会費を1年以上納入しないとき。

- 2 会員を除名するときには、除名を審議する理事会において、当該会員に弁明の



機会を与えなければならない。

(退会)

第8条 会員は、退会届をこの法人に提出して、任意に退会することができる。

2 前項の場合、会員が納入した会費については、これを返還しない。

(規程の改訂)

第9条 この規定の改廃は、理事会の決議を経るものとする。

附 則

1 この規程は、平成23年4月21日から施行する。

2 平成27年11月26日 一部変更する。

3 平成28年3月22日 会員の区分など一部変更

4 平成28年3月28日 公益財団法人認定により名称変更

5 平成28年7月14日 少数会員の年会費を減額

6 平成29年12月9日 「公益財団法人運動器の健康・日本協会」と名称を変更

7 平成30年7月19日 会費20,000名以上200万円を追加

「運動器の10年」を「運動器の健康」に変更

8 令和4年11月22日 特別賛助会員の年会費制を導入

\*別表：参加団体会員の年会費は変更なし

## 6. 人事関係

### (1) 物故者

2月2日(水) 菊地臣一監事が、75歳で逝去。

### (2) 退任

3月28日(月) 評議員の高橋榮明氏が、「運動器の10年」日本委員会創立以来運営委員として、また法人化以後は評議員として貢献されたが、創立20年を終えたことで退任の申し出があり受理した。なお同氏には新たに設けた役員等功労表彰規程により、表彰盾と記念品をお贈りした。

以 上